

答申（案）

資料3

令和5年8月7日

和光市教育委員会
教育長 石川 毅 様

和光市文化財保護委員会
委員長

下新倉氷川八幡神社境内の富士塚の文化財指定について（答申）

平成30年2月19日付和教生第151号で諮問された標記のことについて、
審議した結果を別紙のとおり答申いたします。

下新倉氷川八幡神社富士塚について

はじめに

市内の現存する富士塚は、明治時代初頭にかけて富士講社により築かれたもので、富士塚に登拝することで富士山に登山することと同等の利益があるとされていた。

今回の調査から、白子熊野神社富士塚は丸瀧講、下新倉氷川八幡神社富士塚は丸吉講によってそれぞれ明治三年（一八七〇）に、浅久保浅間神社富士塚は丸吉講によって明治六年（一八七三）に築かれたもので、白子熊野神社富士塚及び下新倉氷川八幡神社富士塚は、築造当初の姿を残し、浅久保浅間神社富士塚は移転ないしは移築があったことが分かっている。

これらの富士塚には、他地域の講社の造立した石造物も多く見られ、講社間の交流の後も見取れ、明治時代初頭の地域交流の一環も明らかにされている。

市内に現存する三基の富士塚には、それぞれ異なった特徴が見られ、当時の富士信仰を知るための貴重な歴史、民俗資料であることが理解される。

下新倉氷川八幡神社富士塚

現在の富士塚は、石碑の銘文から明治三年（一八七〇）に丸吉講下新倉講社によって築造されていることが分かる。しかし、山頂の神名碑や参道部の築山碑には、かつて築造された富士塚が嘉永元年（一八四八）に再建され、さらに明治三年に現在の富士塚が位置をずらして築造されたことが記され、さらにこの富士信仰の起源が慶長十九年（一六一四）に遡る可能性があることが記される。

また、富士塚自体は、非常に遺存状況が良く、築造当時の状態が良く残されている。

このことから、この富士塚は地域の民間信仰の歴史を良く残し、地域に長く継承されてきたものとして、和光市の歴史や民俗を理解するうえで大変貴重なものである。

よって、市民の文化志向を高めるため市指定文化財として保存、活用を図り後世に永く伝える必要がある。

令和5年8月7日

和光市教育委員会
教育長 石川 毅 様

和光市文化財保護委員会
委員長

白子熊野神社境内の富士塚の文化財指定について（答申）

平成30年2月19日付和教生第152号で諮問された標記のことについて、
審議した結果を別紙のとおり答申いたします。

白子熊野神社富士塚について

はじめに

市内の現存する富士塚は、明治時代初頭にかけて富士講社により築かれたもので、富士塚に登拝することで富士山に登山することと同等の利益があるとされていた。

今回の調査から、白子熊野神社富士塚は丸瀧講、下新倉氷川八幡神社富士塚は丸吉講によってそれぞれ明治三年（一八七〇）に、浅久保浅間神社富士塚は丸吉講によって明治六年（一八七三）に築かれたもので、白子熊野神社富士塚及び下新倉氷川八幡神社富士塚は、築造当初の姿を残し、浅久保浅間神社富士塚は移転ないしは移築があったことが分かっている。

これらの富士塚には、他地域の講社の造立した石造物も多く見られ、講社間の交流の後も見取れ、明治時代初頭の地域交流の一環も明らかにされている。

市内に現存する三基の富士塚には、それぞれ異なった特徴が見られ、当時の富士信仰を知るための貴重な歴史、民俗資料であることが理解される。

白子熊野神社富士塚

この富士塚は、舌状台地の末端部を成型して構築した塚と考えられる。塚の規模は、一辺約三〇メートルの正方形で、高さはおよそ十〇メートルを測り、県内でも最大級である。

また、丸瀧講白子講社以外の講社によって造立された石造物が一九基もあることから、他地域との文化交流がうかがえる事例となっている。

このことから、この富士塚は地域の民間信仰の歴史を良く残し、地域に長く継承されてきたものとして、和光市の歴史や民俗を理解するうえで大変貴重なものである。

よって、市民の文化志向を高めるため市指定文化財として保存、活用を図り後世に永く伝える必要がある。

令和5年8月7日

和光市教育委員会
教育長 石川 毅 様

和光市文化財保護委員会
委員長

浅久保浅間神社境内の富士塚の文化財指定について（答申）

平成30年2月19日付和教生第153号で諮問された標記のことについて、
審議した結果を別紙のとおり答申いたします。

浅久保浅間神社富士塚について

はじめに

市内の現存する富士塚は、明治時代初頭にかけて富士講社により築かれたもので、富士塚に登拝することで富士山に登山することと同等の利益があるとされていた。

今回の調査から、白子熊野神社富士塚は丸瀧講、下新倉氷川八幡神社富士塚は丸吉講によってそれぞれ明治三年（一八七〇）に、浅久保浅間神社富士塚は丸吉講によって明治六年（一八七三）に築かれたもので、白子熊野神社富士塚及び下新倉氷川八幡神社富士塚は、築造当初の姿を残し、浅久保浅間神社富士塚は移転ないしは移築があったことが分かっている。

これらの富士塚には、他地域の講社の造立した石造物も多く見られ、講社間の交流の後も見て取れ、明治時代初頭の地域交流の一環も明らかにされている。

市内に現存する三基の富士塚には、それぞれ異なった特徴が見られ、当時の富士信仰を知るための貴重な歴史、民俗資料であることが理解される。

浅久保浅間神社富士塚

浅久保浅間神社富士塚は、少なくとも明治六年（一八七三）に丸吉講によって築造されたと考えられ、その後移転ないしは移築している。このことから、現存する富士塚は当初のものではない。

しかし、多数の石造物が残り、当時の富士信仰を窺い知るためには、非常に貴重な資料といえる。また、下新倉氷川八幡神社富士塚と同様に、この富士信仰の起源が慶長十九年（一六一四）に遡る可能性があり、現富士塚の前史が想定されることから、当市の歴史、民俗の貴重な事例となるものである。

このことから、この富士塚は地域の民間信仰の歴史を良く残し、地域に長く継承されてきたものとして、和光市の歴史や民俗を理解するうえで大変貴重なものである。

よって、市民の文化志向を高めるため市指定文化財として保存、活用を図り後世に永く伝える必要がある。